

ふじのくに芸術祭2021(第61回静岡県芸術祭)演劇コンクール審査結果

令和3年12月19日

- 1 種 目 音楽・舞台芸術部門 演劇コンクール
- 2 会 場 県内各会場
- 3 期 間 令和3年6月1日(火)から12月5日(日)まで
- 4 参加団体数 5団体(協賛参加1団体含む)
- 5 入 賞

賞	劇 団 名	寸 評
	脚 本	
	代 表 者	
静岡県芸術祭賞 (1)	該当なし	
静岡朝日テレビ賞 (1)	TOMO☆PROJECT	芸術性が高く斬新な演出作品への挑戦が評価されました。エネルギッシュな若手俳優に将来の期待を感じました。演出に工夫を加えれば、更に多くの観客を引き込むことが期待できます。
	赤鬼	
	松尾 交子	
奨励賞 (1)	劇団からっかぜ	洗練された舞台セットや若手俳優の育成は、伝統ある劇団ならではの底力であり、観客動員の多さにも納得するものがありました。演技スタイルのアンバランスさが惜しまれるところです。
	兄帰る	
	布施 佑一郎	
準奨励賞 (1)	演劇ユニット FOX WORKS	オリジナル音楽を取り入れ、孤独感と生き方を異なる3作品で表現することは、現代社会にメッセージを投げかけるものでした。舞台の空間づくりの工夫が望まれました。
	ミセバヤ	
	狐野利典	

6 審査員 飯沼 司郎 大石 敦史 他県民公募審査員 計5名

7 審査総評

コロナ禍でありながら、多くの団体が作品づくりへの情熱を失わず、感染対策を講じて稽古や公演等の活動に取り組まれていることに感謝申し上げます。

今回は、現代社会の様々な情勢や、今に生きる人間のエゴを、独自の表現方法で映し出す作品が多かったことが特徴的でした。悶々とした日常を生きる人々に対して、演劇を通してメッセージを投げかけようとする主催者としての強い意志を感じました。

審査においては、幅広いジャンルからの参加作品もあり、演劇コンクールの多様な観点や捉え方について議論が交わされました。これは、審査会として芸術祭の演劇コンクールの方向性について改めて検討する機会となり、今後の県内の演劇文化が、多様な形態で発展していくことに期待を寄せるものとなりました。

審査員代表 ( 大石 敦史 )